

尾道市立因島南小学校 研究計画

1 研究主題・副題

算数的活動を通して思考力・判断力・表現力を育む授業づくり —因島南小授業スタイルの確立—

2 研究主題の設定理由

本校は、統合後、また統合以前より児童の学習意欲を高めることや児童がお互いを認め、支え合える支持的な学級集団をつくることを目的に、生徒指導の三機能を意識した指導や、ソーシャルスキルワークを活用した授業づくり、道徳の授業を中心とした児童の心を育てる授業研究を推進してきた。

2年の間に学校体制が整い、ソーシャルスキルワークや道徳の授業により、落ち着いて授業を受けることができる児童や学級が増えてきた。しかし、昨年度、第6学年と第5学年が受験した全国学力学習状況調査、基礎・基本定着状況調査ではどの教科でも県平均を下回った。

【各調査の結果】

・全国学力学習状況調査

		本校	広島県	県差
国語	A	71.2%	78.4%	-7.2%
	B	51.6%	60.5%	-8.9%
算数	A	70.6%	79.7%	-9.1%
	B	39.0%	49.5%	-10.5%

・基礎・基本定着状況調査

		本校	広島県	県差
国語	教科全体	57.5%	63.7%	-6.2%
	タイプⅠ	61.9%	68.0%	-6.1%
	タイプⅡ	29.5%	36.7%	-7.2%
算数	教科全体	59.2%	69.4%	-10.2%
	タイプⅠ	64.2%	74.9%	-10.7%
	タイプⅡ	43.0%	52.0%	-9.0%
理科	教科全体	53.9%	60.6%	-6.7%
	タイプⅠ	60.7%	68.1%	-7.4%
	タイプⅡ	41.2%	46.7%	-5.5%

—昨年の同調査結果よりも得点率は上昇傾向にあり、無回答率も下がったことから学習への意欲も徐々に向上している。しかし、県平均には達しておらず、算数科においては-10%以上と県平均を大きく下回った。基礎的な知識を問うA問題・タイプⅠ、活用する力を問うB問題・タイプⅡ、どちらにおいても得点率は低く、「前学年までの既習事項が定着していない」「問題をしっかりと読み取り、問われていることに対して自分の言葉で表現することができない」という課題が考えられる。

そこで、今年度は、昨年度ソーシャルスキルワークや道徳の授業で育まれた、自分も相手も大切にすることを根底にしながら、因島南小学校の授業スタイルを確立し、児童が系統的に学びを積み立て、基礎的・基本的な知識を身に付けることができるようにするための研究を進めることとした。特に、書く活動を中心とした算数的活動を設定し、理解を深めるとともに自身の考えを表現し活用できる力を付けていく研究を進めていく。

3 研究のねらい

算数科授業において、書く活動を中心とした算数的活動を設定することで思考力・判断力・表現力を高める。

4 研究仮説

算数科の学習で、自力解決の手段として、言葉、図、絵、式、数などの算数的な表現を用いて思考の過程を書かせ、説明との関連を図れば、児童の思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

5 研究テーマの定義

(1) 研究主題の定義

○『算数的活動』：児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数にかかわりのある様々な活動（文部科学省）

作業的・体験的な活動など身体を使ったり、具体物を用いたりする活動に限らず、算数に関する課題について考えたり、算数の知識をもとに発展的・応用的に考えたりする活動や、考えたことなどを表現したり、説明したりする活動は、具体物などを用いた活動でない場合であっても算数的活動に含まれる。特に本校では、書くことで学習跡を残し、他者と比較したり、振り返ったりすることで学習内容が深まることを意図する。

○『思考力』：見通しをもち筋道を立てて考える力

○『判断力』：既習内容と結びつけて統合的、発展的に考える力

○『表現力』：学習課題を解決した結果や過程を説明する力

(2) 副題の定義

○『授業スタイルの確立』：授業において算数的活動を十分に設定し、児童の理解を深めるという授業づくりを確立するとともに、進級時にも児童の思考の流れがスムーズに進む授業の型を全校で統一すること。

6 研究内容

1. 児童の思考力・判断力・表現力を育む算数科授業づくり

- ・算数、数学内容の系統性を明確にし、児童に付けたい力を付けるための授業研究、教材研究を進める。
- ・授業の中で習得・活用・探求という学びの過程を位置づけ、児童に力を付けるための学習活動が設定できるようにする。
- ・単元末評価問題を実施し、付けたい力が確実に定着しているか見取り、次の指導に生かす。

2. 道徳教育の充実・SSTによるスキルの定着

- ・具体的な場面を想定して考えさせるU-SSTを活用したソーシャルスキルトレーニングと、ねらいが明確であり児童が心を開放できる道徳の時間を中心として、自分も相手も大切にできる力を身に付けさせ、授業づくりの基盤とする。

3. 教育活動全体を通して

- ・「南の5つ星」を規準として、学習規律を徹底し、学びの場を教師と児童でともに作る
- ・教職員の声かけ・言葉遣いの徹底（声かけ・挨拶、くん・さん、授業中の丁寧な言葉遣い）
- ・児童が「考えたい！」「分かった！」を実感できる授業の実施（生徒指導の三機能を生かして）

7 研究の評価

<p>評価の 観点</p>	<p>【算数科授業】</p> <p>①単元末テスト・評価問題の結果</p> <p>②全国学力・学習状況調査，基礎・基本定着状況調査の結果</p> <p>③授業の中で算数的活動を設定している教師の割合</p> <p>【学習規律】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律アンケートの結果 <li style="padding-left: 20px;">返事は、「はいっ。」と言います。 <li style="padding-left: 20px;">相手の目を見て，話を聞きます。 <li style="padding-left: 20px;">伝わる声で話します。 <li style="padding-left: 20px;">学習用具をそろえます。 <li style="padding-left: 20px;">濃く，丁寧に字を書きます。
<p>評価計画</p>	<p>【算数科授業】</p> <p>①単元末テスト・評価問題において通過率 80%以上の児童が 80%以上であることを目指す。</p> <p>②全国学力・学習状況調査，基礎・基本定着状況調査において県平均10%を目指す。</p> <p>③授業の中で算数的活動を設定している教師の割合を教師による自己評価を行い，100%を目指す。</p> <p>【学習規律】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南の5つ星（学習規律）アンケートの実施児童の自己評価において，4段階評価で平均3以上と評価をした児童が，80%以上であることを目指す。またはその数値の上昇を目指す。 ・教師から見て，児童の実態はどうであるか評価し，「80%以上の児童ができている」と評価した教師が 80%以上であることを目指す。 <p>評価時期・・・4月，7月，12月，2月</p>